１９９０年１２月５日発行（毎月１回５日発行）１９８４年２月１０日第三種郵便物認可 ［ＳＳＮ ０２８６－４４７９

POLAND MONTHLY ／ BIULETYN POLSKI

ポーランド月報

1990年
12月号
（通巻105号）
４００円

マゾヴィエツキ政権の１年間　　知識人アンケート

ワレサかマゾヴィエツキか　　大統領選挙

ワレサの選挙集会。「ワレサを大統領に」

☆☆ ポーランド月報 1990年12月号（通巻105号） 目次 ☆☆

「連帯」の失業対策……3
☆数字がすべてを物語る……5
ポーランド経済 現況と1991年の展望……7
マゾヴィエツキ政権１年間を採点する 知識人アンケート……8
ワレサかマゾヴィエツキか——大統領選挙
対照的な選挙キャンペーン……12
カリスマと慎重居士の争い……14
再編成が進む新聞発行体制……16
ポーランド日誌 1990年９月19日～10月17日……２／18～19

ポーランド日誌
1990年９月13日～10月17日

９月13日 ＮＡＴＯのヴェルナー事務局長がポーランド訪問、マゾヴィエツキ首相、ヤルゼルスキ大統領、スクビシェフスキ外相と欧州安全保障問題を話しあう。●ワレサ委員長記者会見、大統領当選への確信を語る。また、18日に開催予定のグレンプ首座大司教の招きによる指導的政治家たちの会合（私的円卓会議）についてもコメント。●鉄道運転士組合が２時間の警告スト。●『ガゼタ・ヴィボルチャ』紙によれば、消費者物価は７月以来1.8％上昇。

９月14日 空席だった３大臣ポストの新人事が下院で承認される。農相にヤヌシュ・ピリンスキ、通信相にヤン・ヴィクトル・シレザク、新設の所有移転相にはヴァルデマル・クチンスキ。●レーガン前大統領夫妻がポーランド訪問、マゾヴィエツキ首相、ヤルゼルスキ大統領と会談。●ワレサ委員長、民主労働党議長Ｗ・シワ＝ノヴィツキと会談。シワ＝ノヴィツキはワレサへの全面的支援を約束。●キシチャク前内相、テレビのインタビューで、ポピエウシコ神父殺害事件への関与を否定。●ソ連政府はポーランドに対し、政府間ベースでの原油供給を全面的に停止、すべて各共和国あるいは企業との直接取引き（ハードカレンシー決済）とすると通告。

９月15日 ヴェルナーＮＡＴＯ事務局長、グダンスクでワレサ委員長と会談。●レーガン前米大統領、グダンスク造船所を訪れ、ワレサ委員長の歓迎を受ける。

９月17日 ワレサ委員長、大統領選立候補を正式表明。●キリスト教民主党、大統領選でのワレサ支持を表明。

９月18日 グレンプ首座大司教の招きで、マゾヴィエツキ首相、ワレサ委員長、ヤルゼルスキ大統領、ステルマホフスキ上院議長、コザキエヴィチ下院議長がワルシャワの首座大司教館で会談（「首座大司教のお茶会」と呼ばれる）。夕刻の第２部では20人以上の指導的政治家が会談に参加。会談内容の詳細は明かされず。●国営ＰＡＰ通信が９月初めに行った世論調査によれば、「来週大統領選が行われるとしたらマゾヴィエツキに投票する」人は全体の48％、ワレサが37％。41％はできるだけ早期の大統領選を望み、22％はヤルゼルスキ大統領が任期を全うすべきと考えている。

９月19日 ヤルゼルスキ大統領、自身の任期短縮を国会に求める。●ポーランド農民党、政府農業政策を不満として自党からの閣僚の推薦を取りやめ、野党に転じることを決定。

９月21日 ポーランドは国連安保理事会に対し、国連のイラク制裁決議に従ったことにより深刻な経済的損害をこうむったと訴え、援助を要請。

【18頁に続く】

「連帯」の失業対策

NSZZ Solidarność Confronts Unemployment
News Solidarność, No.156, Oct.1990

失業はマゾヴィエツキ政府が進める経済改革の諸結果の1つとしてポーランドに生じた新しい現象である。経済改革の基本的前提の1つは、それがポーランドに真の労働市場の誕生をもたらすということにある。ところが、ある種の経済的プロセスの衝動的な性格が、今日われわれが見ている失業を正常な労働市場の条件に照らして評価することを困難にしている。ポーランドの労働市場は現在もまだ産みの苦しみの中にある。失業の規模とその増加率を予測し、最もその影響を受ける社会層を想定することはほとんど不可能である。効果的な対策は、基本的な経済政策や特定産業部門の再編成のプロセスの明確化、あるいは地方産業の競争力の明確な評価なしにはできない。現時点ではっきりしていることは、失業の急激な増大の原因が構造再編成の努力にというよりも景気の後退傾向にあるということである。この事実はいくつかの危険を示唆する。労働市場の発展が歪んだ形になる危険性、経済改革全体に対して社会的反発が生じる可能性、政府の失業対策の不十分さのため労働保護諸機関の活動に対する不信が生じるおそれ。

失業の「馴化」

失業は社会的不安を引き起こす。それゆえにその「馴化」がきわめて重要になる。それは、教育の促進、国や組合の制度の整備、効果的な対策の実施などを意味する。さらに、雇用政策は広い意味での社会政策の不可分の一部とならなければならない。ポスト共産主義のポーランドには、まったく新しい社会政策の基礎を据え、政府の社会市場経済政策に重要な内容を与えるまたとない機会が存在する。独立自治労働組合「連帯」は失業のこの「馴化」のプロセスに参加できるだろうか。すでに明確になっているとおり、失業に関連するすべての問題について政府に介入を迫る――抗議行動よりも制度的な社会的行動によって――ことが不可欠である。それは、中央集権的な政策への復帰ではなく、非集権的な失業対策の形成を可能とする枠組の設定を意味する。困難な問題とジレンマを直視しなければならない。「連帯」は失業を一定の水準に押しとどめるよう努力すべき（合法的な圧力手段を通じて、またストライキ権を行使して）なのか、それとも労働市場の急速な崩壊を考慮して警告のメカニズムを作動させるべきなのか。いずれを採るにせよ、組合は失業に抗議しこれと闘う権利を制度的に保証されなければならない。

もう1つの道は、それがどれだけの規模と範囲に及ぶかを現実的に認識しないまま、現に存在するがままの失業をわれわれが受け入れることである。この場合、われわれは失業の現象に対して一定の限界を設定するようなことはせず、市場である種の均衡が成立するまでそのダイナミズムを観察するだけにとどめる。

いかなる道が採用されるにせよ、組合はある1地方の住民全体が雇用機会を奪われる（ある地方の唯一の企業が倒産する）といった可能性を受け入れることはできないし、また失業が特定の社会集団、つまり特定の職業、性、年齢の特定労働市場集団に構造的に固定化されるのを認めることはできない。

効果的な対策をとるためには事前に現状の慎重な分析が必要である。したがって、現在最も重要な任務はわが国のあらゆる地域の労働と経済の条件について具体的かつ包括的な情報を収集整理することである。そのうえで初めて、さまざまな具

© Jacek Marczewski

体的な措置を検討し、失業対策のプログラムを起草し、そして経済の近代化のために不可欠な社会的、職業的な流動性を備えた真の労働市場を機能させることが可能となる。

「連帯」の対策

組合は、包括的アプローチの一環として、失業というこの深刻な現象の3つの局面に積極的に関与しようとしている。

1）解雇

組合は長い間、解雇された労働者の効果的な防衛と、雇用者による不法行為の防止、そしてレイオフと企業内部の真の構造再編成との結合を求めて、法律の改正を要求してきた。組合は、解雇の条件をめくって、そして労働条件および賃金条件の将来的改善を求めて、交渉に取り組んでいる。雇用の合理化と労働者の雇用機会維持のあいだにバランスをとることが重要である。

2）失業

レイオフされた労働者も依然として組合員であるという事実を想起しておくことが重要である。政策的介入は、組合の援助のもとになされる個人的な努力と一体化して行われるとき、最も効果的である。独立自治労組「連帯」は特別の失業援助基金の設立を進めているが、同時に本人の積極的な対応と自助のイニシアチブの促進を目指して、広い範囲にわたる教育的、組織的な努力を行っている。社会政策の分野では「連帯」は三者雇用協議会の権限の拡大を求めている。これは、この組織を福祉行政のもう1つの邪魔物とするのではなく、職を紹介し、指導し、再教育を施す真に役立つ機関に変えようとする試みである。「連帯」はすでに、いくつかの都市に独自の職業紹介サービス機関を設立しており、ワルシャワには最初の青年雇用機関が設置されている。

失業労働者の多くは、必要な給付はすべて得ているとはいえ、それでも貧窮に陥るおそれに直面している。そこで組合は、社会的ミニマムと対比しても十分な水準の失業手当を保証するために行

動する。「財貨のミニマム・バスケット」の計算と結び付いたこうした努力がすでに開始されており、政府との交渉のテーマにもなっている。

3）再雇用

組合は以上2つの段階にとどまっていてはならないと考えている。そこで企業の発展と新しい職の創造が次の任務となる。組合は、自らの経済的な組織と行動を通じて、また地方政府の仕事への積極的参加によって、こうした任務を遂行しようとする。この面で「連帯」は2つの任務を結び付けることができる。労働者の任務と市民の任務である。

要するに、失業を「馴化」しようとする組合の努力は以下の諸任務を含む。さまざまな段階でこの失業という現象に対処するための適切な制度的構造を準備する。地域的、全国的レベルで失業問題の規模を判断する評価能力を身につける。経済改革の諸施策の一環として適切な雇用政策を実行する。職業上の移動を積極的に受け入れる態度を労働者に身につけさせる。各人の人間的尊厳と相応の生活水準を守る。

外国の労働組合の援助

西側諸国の労働組合は失業問題に対処するうえで豊富な経験を蓄積しており、当然のことながら「連帯」はこれを高く評価している。生まれつつある労働市場と失業の急激な拡大という条件のもとで「連帯」が直面する次の4つの課題に挑戦するために、これら西側諸国労働組合の援助と協力が重要である。4つの課題とは、労働の保護、雇用と職業訓練、雇用創出、雇用諸機関の活動、である。

労働の保護

「連帯」は労働市場に関連する法令の作成段階から自らの意見を表明することを望む。したがって、他の諸国で実行されている法的措置や制度、労働組合との協議の方法などについて情報と教育を必要としている。

数字がすべてを物語る

9月末までに失業者数は92万6,382名に達した。うち女性が46万9,217名である。来月末までに百万人の大台を超えることはほぼ確実である。新規雇用者数は前月とほとんど変わらず、6万980名（うち女性は1万2,604名）にとどまった。

以上の絶対数は真実の1部を物語るにすぎない。失業問題の深刻さは全国各地方ごとに大きく異なる。多様な経済的基盤を有する整備された大工業中心地――グダンスク、シチェチン、ワルシャワ、ウッチ、ヴロツワフ、カトヴィツェ、クラクフ、ビエルスコビアワ――では失業の影響は今のところ比較的軽微である（求人数1人あたり求職者数10名以下）。ところが周辺部に位置する産業的モノカルチャー地域――オストロウェンカ、ヴオツワウェク、ザモシチ、クロスノ――では失業の影響は最も深刻である（求人数1人あたり求職者数100人以上）。ここでは、1つの企業――しばしばその地方唯一の企業――の閉鎖が破滅的結果をもたらしている。

もう1つの深刻な問題は、失業の影響が男女でいちじるしく異なることである。9月の求人数1人あたり求職者数は男女合わせた平均では15名であるが、女性だけをとれば何と2倍以上の37名にもなる。

［訳：水谷　暁］

雇用と再教育

組合の多くの支部にとってこの任務はとくに困難と考えられており、したがって援助が何よりも必要である。組合の地方支部は、解雇が行われる際の交渉の方法について、また上級の組合機関から援助と助言を受ける際の方法について、訓練が必要である。政府のであれ組合のであれ、雇用機関を文字通り1から作り出さなければならない。この機関の運用の仕方、機能の仕方に関する知識がとりわけ必要である。等しく重要なのは、再教育の分野における組合の役割に関する、また労働市場に存在するさまざまな機関の間の協力に関する知識である。

雇用創出

失業と闘うこの重要な手段に、あらゆる組合活動家が特別の関心と興味を持っている。以下の分野における外国の労働組合の経験がとくに貴重である。事業を始める意思のある失業者に対する法的、経済的、金融的な助言や専門的訓練などの援助の方法。その際の労働組合の役割や政府機関との協力の方法。

雇用協議会

この新しい2者機関に組合活動家はいまでも疑問と保留の気持を抱いている。したがって、外国におけるこの種機関の実際の機能に関する情報と知識は、彼らにその有効性を確信させる役に立つであろう。

一般にわが組合は3つの基本的な分野、すなわち情報と教育と実践的訓練の分野において外国の労働組合の援助を必要としている。こうした援助はわれわれの活動の最初の時期から与えられ、いまではあらゆるレベルのますます多数の組合から来るようになっている。このように、失業との闘いにおいて「連帯」は孤立していない。この事実は、「連帯」がこの挑戦に勝てることを意味している。

訳：本谷　甦

© Jerzy Szczepkowski

ワルシャワ職安で求人票を見る失業者たち

ポーランド経済

現況と1991年の展望

Polish Economy
Gazeta International, No. 34, 37

9月の主要経済指標

中央統計局(GUS)の発表によれば、9月のポーランド経済は、雇用の合理化の漸進、輸出の拡大、そして物価の若干の上昇によって特徴づけられる。9月の工業生産は前年同月を24.3%下回った。景気後退は、9月は8月よりさらに進んだが、本年初めに比べればやや鎮静化している。食品加工産業の相対的な回復過程が進行中である。

コメコン諸国への輸出は減少傾向にある（昨年の合計の約80%）。ソ連からの輸入は対前年比40%へと激減した。他のコメコン諸国からの輸入も55%に減少した。コメコン諸国に対する貿易黒字は1990年1月以降の合計で32億ルーブルに達した（うちソ連に対して20億ルーブル）。コメコン以外に対する輸出は8月に比べて13.9%、昨年9月に比べて50%、それぞれ増大した。輸入は、8月に比べて12.4%増大したが、前年9月比では約9%の減少となった。国際収支は9月に4億9,400万ドルの黒字となり、1月以来の黒字総額は34億ドルに達した。

基幹産業部門の雇用者数は8月に比べて1.2%、前年9月に比べて12%、それぞれ減少した。平均賃金は8月に比べて7.4%上昇し、月平均111万9,900ズウォチ〔約1万5,000円〕になった。賃金の上昇率は物価上昇率よりも大きく、インフレ抑制の困難さを示している。今年第3四半期の世帯あたり所得額の伸び率はインフレ率を上回った。

来年度経済の見通し

1991年の小売物価は1990年の平均に対し32～52%の上昇となる。GNPは4%、総産出量は5.5%、それぞれ増大しよう。失業者数は1991年末までに200万人に達するだろう。

旧ルーブル地域に対する輸出は21%減少するが、西側に対する輸出は11%増大する。貿易赤字は石油輸入価格の上昇のため9億ドルを超えよう。

以上は、中央統計局と労働、財政両省が作成し、この11月5日、閣議に提出された1991年度経済社会計画による経済見通しである。

ズウォチの価値が安定し、競争力がつけば、所有構造の再編成によって経済が活性化する。そのためには、予算、通貨、信用の各政策のカジ取りが決定的に重要な意味をもつ。

現政府は、財政上の均衡と統一的、体系的な経済改革の進行をさまたげないかぎりにおいて、特定産業部門に対する補助金ないし優遇ローンの供与が必要だと考えている。

企業の民営化計画

国有部門の半分が3年以内に民営化される。1991年中に、中規模企業150～200社と小規模企業の大半が民営化される。民営化ないし清算された企業のリースも可能である。この場合の費用は買い取りに比べて安くなる。地方自治体の資産は、今後数年間の地方自治体の経済政策の強化のために再評価が行われる。

国有企業の大蔵省所有株式会社化は、企業の経営方式とその効率の変化をもたらすだろう。

優遇される小規模企業

小規模企業に対するサービスを強化し、その信用保証を目的として新しい銀行制度が設立される。中小企業は、金融的カウンセリングやマーケッティング戦略に関して専門的助言が受けられるようになる。中小企業を支える諸機関には政府の財政的援助が与えられる。外国人投資家に対しては利益の本国送金が認められる。

〔訳：水谷　驍〕

マゾヴィエツキ政権1年間を採点する

知識人アンケート

How the Rulers Rule
Gazeta International, week 41 1990 11 Dec 1990, Warsaw

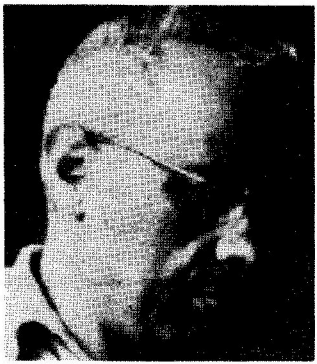
【編集部注】 マゾヴィエツキ首相就任1周年を期して、『ガゼタ・インターナショナル』紙はこの1年間の政府の仕事ぶりをとう評価するか、各界の知識人に聞いた。質問事項は次のとおり。

1 この1年間の政府の最大の業績
2 失敗、ミス、不十分だった点
3 1番良かった大臣
4 1番悪かった大臣
5 政府が最優先すべき課題は何か？

スタニスワフ・レム
（作家）

1 最大の業績は、政府が今日まで持ちこたえてきたこと、社会が暴力的抗議に出ず、多かれ少なかれ改革計画の痛みに耐えてきたことだ。

2 政府に対して指摘すべき点はいくつかある



© CAF

確かなことは、もし政府が失敗するとしても、政府の政治哲学に由来する失敗をしでかすことはないであろうことだ。むしろその失敗は、政府の歩む道を迷わそうとしているレフ・ワレサと中央同盟の動きが原因となろう。その結果われわれは民主主義的体制に行きつくかわりに、第2次大戦前のオーストリアに見られたような法人型国家になってしまうこともあり得る。ファシスト体制ではないが、民主主義的体制でもないものに。

3 バルツェロヴィチ蔵相は非常に簡明な考え方を導入した。権能とか適格性といった点に関していえば、次期内閣は現内閣にとてもかなわないだろう。

4 大臣になるためには、熱烈な愛国者か悪者のどちらかでなければならない。

5 政府は選挙を進め、アメリカの宣伝のプロのような人々を使って、6～7項目からなる簡潔なプログラム、デマゴギー的でないプログラムを作るべきだ。

マチェイ・イウォヴィエツキ
（ポーランド・ジャーナリスト連盟議長）

1 マゾヴィエツキ首相は岩を動かした。あの巨大な塊を動かしたのは成果であり、間違いなく歴史的な出来事だった。それがもっと短期的に、もっと速いスピードで達成できたはずのものかそうでなかったかは、議論の対象とすることができようが。

© Tomasz Warszawski

2　政府のミスは、人々の感情や期待の重要性を過小評価していたことだ。

3　との大臣も、選ばれたはずの誇りを担った。従って、最良の大臣には誰の名も挙げられない。

4　誰が最悪かは言えない。なぜなら彼らは皆、私の仲間だから。この政府が理想的な政府でないのは事実だ。遺憾ながらそれは言わねばならない。

5　政府は自身の誇りを分析すべきだ、特に社会への広報の面で。農業に関して適切な方策が取られなければならない。農民の要求程度が高すぎるにしても、これほど農民が不満を抱いている現状をこのまま続けるわけにはゆかない。国民の半分は農民なのだ。民営化プロセスは速めるべきであり、外貨導入は拡大すべきだ。

コンスタンティ・ゲーベルト
（ジャーナリスト、筆名ダヴィド・ワルシャフスキ）

1　すでに実施された政策、つまりバルツェロヴィチ計画を推賞する。超インフレを抑え、経済の体系的再建への道を開いた。また、ドイツとの条約〔国境協定〕も評価している。

2　政府は決定事項を社会に伝えることにあまり注意を払わなかった。広報活動を無視し、マスメディアを軽視した。

他のポスト共産主義諸国との実体的な政治協力が全く欠けている。その好例が、プラティスラヴァ・サミットでのブダペスト＝ワルシャワ＝プラハの三国関係樹立の失敗だ。

また、政府行政に混乱が見られる点も問題だ。

3　バルツェロヴィチ〔蔵相〕。彼の立てた計画の効果は疑うべくもない。スクビシェフスキ〔外相〕。彼は、戦後ポーランドの外相としてはラパツキ以来初めて、自分のやっていることを国民に説明した。クーロン〔労相〕。私は彼を高く評価している。おそらく、彼が実際に行った仕事の成果というよりも、彼が正直であり、社会にオープンに話しかける勇気を持っているという点に負うところが大だが。

4　ハンシュキ〔建設相〕とニェザビトフスカ〔政府報道官〕。

5　政府の改革計画は続行され、計画はしかるべき法律で固められなければならない。この点をきちんと行って、政府が変わったのちも政策が変わることのないようにしなければならない。

© Tomasz Warszawski

ヨアンナ・シチェプコフスカ
（女優）

© CAF

1　この政府は、共産主義の犠牲者に何度もなりかかった人たちの集まりです。でも彼らは犠牲者となるかわりに、この国を再び自立した存在にしようと決意しました。そのために、人気を落とすかもしれない経済的、政治的、道義的決定をあえて下したのです。

2　素朴にすぎるかも知れませんが、政府は広場やバルコニーから人々に手を振るべきだったと思います。一緒に勝利を味わうことには、素晴らしい意味があります。でも彼らはそれをせず、何もかもが、仕事に取りかかるぞ、という厳粛な雰囲気の中で行われました。長く待ち望んだ自由が訪れたにもかかわらず、私たちが受動的で無気力なのは、ある意味であの全き厳粛さによるものだと思います。

3　クーロン。彼の活力、勇気、際立った仕事熱心さは本当に印象的。バルツェロヴィチ。彼は真のプロフェッショナル特有の首尾一貫性をもって計画を実行しました。街のどこを見てもその成果が目に入るでしょう。それを認めない人がいたら頭にきちゃう。スクビシェフスキ。私たちは彼を誇りに思います。

4　通信相が最悪。電話がちゃんと相手につながらないから。農業省もあるべき姿にないわね。

5　私は政府を信頼し、尊敬していますから、政府が将来どうあるべきかを思い描くより、私がどんな形でお役に立てるのかの方を考えてしまいます。

マルチン・クルル
（歴史家、月刊誌　レス・プブリカ　編集長）

1　第1に、この政府が成立し得たということ。第2に、経済計画の導入。

2　国民への広報

3　クーロンとコズウォフスキ〔内相〕

4　農相と通信相。空席になっているから

5　選挙に勝ちたければ、政府は今何をしているか国民に説明する能力を身につけなければならない。また、政府は議会を説得して比例制選挙でなく多数制選挙を採用するようにすべきだ。選挙に勝つためでなく、選挙を常識にはずれない形で行うために。

© Jerzy Gorzkowski

ハンナ・クラル
（作家、レポーター）

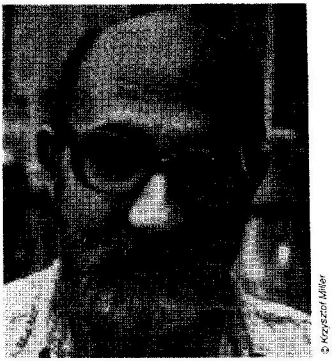
© Anna Biała

1、2、3、4、5　政府はちゃんとした仕事をしていない。非効率的だ。その理由は至極簡単。政府を代表する人々の政治基盤が、実施しようとする計画のためには不十分なことによる。右翼に懐疑的な人もいれば右翼に懐疑的な人もいる。今日、「左翼」という言葉は侮辱的な響きを持っている。私が言っているのはもちろん共産主義ではなく社会民主主義的左翼のことだ。

従って、マゾヴィエツキやベク＝コンやサムソノヴィチ〔教育相〕のような左派的傾向のパーソナリティを持つ人々が自由市場経済計画を実施し、彼らと対立する中央同盟を中心とした右派が、保護的な社会保障計画を提示している。これは途方もない状況だ。皆がその人本来の傾向とは正反対のことをしているように見える現在、いったいどんなまともな成果が上がろうか。

ステファン・プラトコフスキ
（ガゼタ・イ・ノウォチェスノシチ 編集長）

1　政府の業績は、言うまでもなく外交政策にある。西側政治家たちの意見では、わが国政府が東欧の中で最も責任能力があるという。



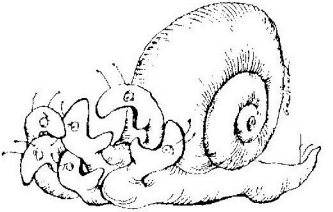
© Krzysztof Miller

2　個別の問題について政府に助言を与えてくれる専門家を引きつけられなかったこと。政府が政治家によって構成されていることから考えれば当然とも言えるが、ポーランドでは専門家はあまり知られていない。以前の政府は専門家のことなんて知ろうともしなかった。

3　間違いなくスクビシェフスキ外相。

5　事態はどれも政府の先を行っている。われわれすべての先を行っている。しかし私が最も緊急と考えるのは農業政策だ。また、住宅問題の克服と中小企業の育成も重要だ。

〔訳：高橋裕子〕



© Jacek Gawłowski

対照的な選挙キャンペーン

マゾヴィエツキとワレサ

Mazowiecki and Wałęsa　two election campaigns
Gazeta International, week 41　1990, Nov. 1, 1990

【編集部注】　11月25日の投票日を前に、ポーランドではワレサとマゾヴィエツキの選挙戦が展開されている。しかし両者のキャンペーンは対照的なようである。　ガゼタ・インターナショナル紙から、新聞記者の見た選挙戦評を訳出する。ここに書かれているようなキャンペーンを見聞きして、ポーランド国民がどのような判断を下すのか、本誌が出るころには結果が明らかになっているはずだが……。

話のわかりやすさではマゾヴィエツキだが

大統領選挙戦の序盤戦が終わった。毎週毎週政治集会に顔を出しているレフ・ワレサは、10月12、13の両日、ヴィエルコポルスカ地方で一連の集会を開いた。一方マゾヴィエツキ首相はクラクフでの12時間マラソン集会で選挙運動をスタートさせた。ワレサに比べ、マゾヴィエツキのやり方は極めて堅く重苦しい。しかし1つだけ特記すべき例外事項がある。

それは政治的な内容である。マゾヴィエツキの演説では、彼の言いたいことは明確でわかりやすい。ワレサの演説は内容がごちゃまぜで、主に人々の情緒面に訴えかける。ほとんどすべての人が、ワレサが「自分たちの考えを代弁している」と感じる。私はマゾヴィエツキの話を聞いて、彼が何を話しているか正確に理解できなかったことは一度もない。ワレサの演説もしょっちゅう聞くが、後の話は常に理解できるわけではない。マゾヴィエツキの演説をノートしながら私は、翌日の「ガゼタ・ウィボルチャ」紙に彼の発言を引用してもそれが「スキャンダラスな重曹」などと非難される恐れのないことを確信できる。ワレサではそうはいかないことを私は身をもって経験している。

ワレサ　見事な計算、周到な準備

ワレサは選挙戦のやり方を知っていることを証明してみせた。ワレサの集会は、「連帯」活動家によって実に周到に組織されている。ワレサを見に集まった人々は、組合「連帯」とその指導者ワレサを讃えるロック音楽や歌で楽しませてもらえる。また、時にはアナウンサーにマイクを向けてもらえることもある。例えばカリシュの集会では、アナウンサーはマイクを手に集会参加者の中へ下りて行き、そのうちの1人に尋ねた。

　誰に投票するおつもりですか、マダム。

　もちろんワレサよ。マゾヴィエツキなんか仲間のユダヤ人と一緒にイスラエルへ行っちゃえばいいんだわ。

　ふーむ、お言葉の後半はちょっと大げさにおっしゃりすぎたようですね。前半はそんなことないでしょうが。

アナウンサーは当惑気味にこう言い、次の質問相手を探す。

　この中で組合員でない方は？　あなた？　じゃ、あなたにお聞きしましょう。誰に投票なさ

いますか？

―マゾヴィエツキ。ワレサは塔を振り回して、命令で統治するつもりでいるようだから。

―このお答えこそわが国の複数主義です。

アナウンサーがこう答える（このアナウンサーは実は政府の一員で、体育文化委員会の副委員長である）。カリシュの市場広場を埋めた群衆は拍手喝采する。この応答はもちろん仕組まれたものではなく、ハプニングであった。

そこへキキーッと音を立てて公用車のフンチア〔イタリア製高級車〕が到着する。ワレサは最良の外交官のごとく正確に時間通りやって来る。これは集まった人々を尊重していることを示すサインである。どこでも集会会場は（7000人収容のポズナンのアリーナでさえ）、集まった人々を収容しきれない。警備員たちが列を組んで、通路を作り、レフ・ワレサは演壇に跳び上がる。

ワレサの話はマイクと10個ほどの強力なスピーカーを通じて群衆に伝えられる。彼の言葉はすべての人を揺り動かす。人々の心は満たされ、空腹のものはそれを忘れる。ワレサは声を上げ、何かを声高に主張し、ついで突然ゆっくりした口調になり、笑い、しかめ面をしてみせる。ためらいは一瞬たりとも見せない。長々と質問が続くと途中で口をはさむ。時々は、実に人なつこい笑顔で傍らの補佐官に向かい、「話のつながりを忘れちゃったよ」と助けを求める。彼の演説には単調で退屈な部分など全くない。あるときポズナンで彼がボグダン・リス（著名な「連帯」活動家）に外交政策に関する文書を読み上げるよう頼んだところ、群衆はリスにブーイングを浴びせた。ワレサは2度と同じ過ちを繰り返さなかった。

ワレサはマスコミの存在を決して忘れない。集会の際、彼はジャーナリストたちに向けても発言する―時には攻撃的に（『ガゼタ・ヴィボルチャ』記者に対し）、またある時は面白がって挑発的な態度で（西側の報道関係者に対して）。報道関係者には手厚く応対すべきこと、ジャーナリストには取材の便宜を計り、特別の席を設けるべきことが関係者全員に周知徹底されている。そしてこれは十分に効果を上げている。集会に集まるのは数千人だが、新聞を読む人間は数百万人もいるのだ。

fot. ARTUR PAWŁOWSKI

不手際目立つマゾヴィエツキ陣営

マゾヴィエツキの選挙運動の第1弾となったクラクフでの集会は、ほとんど予告も宣伝もされなかった。それゆえ、彼に会うために2500人もの人がフィルハーモニー・ホールにつめかけ、周辺の路上にもあふれたというのは驚くべきことだった。公開の集会には3回に2回の割りで遅刻する首相を待つ間、人々は彼の自黒写真を眺めて時間をつぶした。

スピーカーの調子はあまりよくなかった。もしも首相が、自分はマイクに向かって、そして人々に向かって話さねばならないと自覚していたとすればの話だが。彼は低い声で、ゆっくりと、ずっと同じ調子で、長い間合いを置きながらしゃべった。大学での集会では、しゃべっている途中でマイクが感度の良いものに取り換えられた。新しいマイクを通ってスピーカーから流れた言葉が予想外に大きな音だったので、首相は大変面食らった様子を見せた。

クラクフで首相は、「手に負えないほどの無法状態の上に、どうやったら法治国家を作れるんですか」との質問を受けた。「それは無理だ、そして私がやろうとしているのはそういうことじゃない！」と言っておしまいにしておけば、適切な返

答といえたろう。ところがそうするかわりに彼は不機嫌そうな顔になり、長時間考えこみ、防衛的な態勢を取って長々と説明を始めた。説明が終わる以前に彼の負けは明らかだった。

クラクフ選挙委員会は、マゾヴィエツキ（と同行の政府警護官2人とクシシュトフ・コスウォフスキ内相）を導いて、何とか市場広場を通り抜けた。広場には約1500人がいたが、1人もケガ人が出なかったのは奇跡としか言いようがない。マゾヴィエツキは話をしようとしたが、ヒケをはっていた「闘う連帯」のグループがメガホンでがなり立てて妨害した。マゾヴィエツキは5語話したのち、演説そのものをあきらめてしまった。

彼は市場広場からフィルハーモニー・ホールへ徒歩で移動した。彼自身はどうにかホールに入ることができたが、彼の後ろでドアに人々が殺到し、ジャーナリストもマゾヴィエツキのスタッフも、ホールの外に取り残されてしまった。どこであれ、マゾヴィエツキの参加する集会の組織担当者たちは、報道人がやって来ることを予想しておらず、報道陣の来訪に驚いて、どこかそのへんに座っていて下さいと言うのが常なのである。

たしかに、首相側のチームは電話とテレックスとファックス機器を記者用に提供してくれる（ワレサ側はまだこれらを持っていない）。しかし、それらの機器を使って記事を送る前に、記者は実際に見たり聞いたりする必要があるのだ。

〔訳：高橋初子〕

カリスマと慎重居士の争い

ジャーナリストへのインタビュー

Charisma versus prudence　Interview with Janusz Majcherek of "Czas Krakowski"
by Andre Yaffie
Gazeta International, week 44 - 1990, Nov. 1, 1990

【編集部注】　以下は、クラクフの「チャス・クラコフスキ」誌編集員ヤヌシュ・マイヘレクに、「ガゼタ・インターナショナル」紙のアンドレ・ヤフィエ記者が行ったインタビューである。

現時点までで、レフ・ワレサとタデウシュ・マゾヴィエツキの選挙キャンペーンを見ての印象は？

――これまでマゾヴィエツキが人々と会うときはほとんど密室内の会見だったが、クラクフの集会もそれと同じやり方で設定されていた。大衆に開かれていたのは2カ所だけ、つまり600～800人収容のフィルハーモニー・ホールでの集会と旧市街を歩いた時だけだった。だから、ホールが人で埋まったことがマゾヴィエツキの人気を示すとは言い難い。彼のクラクフ訪問はセッティングがお粗末だった。事前の新聞報道や宣伝も一切行われなかった。

ワレサの各地での集会はこれと全く対照的だ。ワレサは大衆との直接のやりとりを大変重視しており、彼の集会では集まった人がマイクを持って直接質問をする場面が必ず作られている。マゾヴィエツキの集会では、「人々からの質問」は側近によって読み上げられる。これは、必ずしもすべての質問が本当に人々から出されたわけではなく、あらかじめ準備されていたような印象を与える。もちろん確証があるわけではないが。

ワレサは、態度を決めかねている人々や、ワレサに投票することに疑問を感じている人々に、信頼を植えつけようと努力している。一方マゾヴィエツキは、既に彼への支持を決めた人に確信を与えることに力を注ぎすぎている。

ワレサのキャンペーンのひとつの特徴は、同じ過ちを繰り返さないようにしていることだ。例えば、ボズナンで政治的プログラムを提示しようと試みた際、聴衆は間もなく退屈に感じ始めたが、

ワレサはそれにちゃんと気付いた。また、彼は多方面へのアプローチを行い、様々な種類の人々に近寄っていこうとしている。彼は、概して彼の発言に懐疑的なインテリ層に向けて話しかけ、また勤務中のノヴァフタの製鉄労働者にも話しかける。マゾヴィエツキと違ってワレサは、市内のホールでの演説や市中心部を歩くことだけにキャンペーンを限定したりしない。ワレサはダイナミックだ。

ワレサの提案はマゾヴィエツキのそれと比べてどうなのか

－　この面では疑いなくマゾヴィエツキの方に高い点をつけられる。彼は、大統領になったら現在の経済計画への支持を続けるといっている。その経済計画は誰もが知っており、既に1年間にわたり実施されてきた。彼の支持者たちは、自分が何に投票するのかをよく知っているわけだ。ところがワレサは、政策プログラムの詳細を尋ねられると、おどけた発言でかわしてしまう。「諸君が私にプログラムを与えてくれるのだ」とか、「私には決まったプログラムはない、なぜなら何らかのプログラムの詳細を論じる前に、まずわれわれは正常で健全な政治システムを導入しなければならないからだ」など。こうした発言でワレサは質問を巧みにやりすごす。しかし私は、政策プログラムという問題が今回の選挙戦で重要な意味を持っているとは思わない。人々はそんなものを聞きたいと思っていないのだから。

－　将来の大統領の権限は、選挙のかなり後に定められることになっている　このことは、バランス・オブ・パワーの面でどういう結果をもたらすだろうか

－　ワレサが勝った場合の方が影響は大きいだろう。もしマゾヴィエツキが当選すれば、大統領としての彼の活動は、彼が現在政府でやっていることの延長となろう。ただ、現政府は以前の共産党政権と同じ方法を若干使っている　事実を隠し、用心しろ注意しろと説教する点だ。ワレサが当選すると、現在大統領は非常に強大な権限を行使できることになっているので、彼は多くのことを自

fot. ANDRZEJ IWAŃCZUK „RP"

在に動かせるようになり、ポーランドのためにもっと多くのことができるようになろう。ところがわれわれは実際には彼が何をするつもりかを知らない。それがまた彼を未知数の魅力ある候補者にしている理由でもある。何にせよ、ワレサは民営化のスピードを早め、われわれの生活水準を上げるだろう。

－　ワレサは大統領令を発して治めると言うが、これは民主主義への脅威ではないのか？

－　ワレサは自分の権威や権力を拡大するためでなく、政府が新しい法を制定しやすくし、現行の議会による妨害を回避するために、大統領令を行使すると言っている。われわれが完全自由選挙で議会を選出できる日まで、迅速な改革には大統領令が必要だ。これまでワレサの改革加速化要求は厳しく批判されてきた。しかし政府は何度かその要求を受け入れ、共産主義時代の残存物である〔旧共産党系の〕大臣を、いく人か解任し、大統領選挙の日程を早めた。もちろん政府はワレサの発言との関係を否定しているが。

－　この2人以外の残りの候補者は？

－　彼らのチャンスはほとんどゼロだ。唯一候補者らしい候補といえば、独立ポーランド連盟のレシェク・モチュルスキくらいで、最大5％くらいは得票するかもしれない。

〔訳：高橋初子〕

再編成が進む新聞発行体制

イエジ・ドリガルスキ

The Press in Disarray, Jerzy Drygalski
Gazeta International, No. 37, 15 Nov. 1990

【ガゼタ・インタナショナル紙注】　ポーランド政府は10月29日、欧州最大のメディア王国である旧共産党所有の新聞コングロマリットＲＳＷ（従業員８万5,000名）の民営化を決定した。これによって、『ジチェ・ワルシャウィ』や『エクスプレス・ヴェチョルネイ』、『ガゼタ・ポズナンスカ』などの有名新聞を含む118紙が競売に付されることになる。このうち73紙は、財政的負担を引き継ぐことを条件にジャーナリスト協同組合に無償で引き渡される。19の最大クラスの印刷所と全国２万1,000カ所の新聞売店は売却されるか、政府が引き取る。政府はこれを内外資本による株式会社に再編する予定である。

この政府の決定に先立って、ＲＳＷの市場独占を破るためにこれをいかに再編成するかの問題を研究する目的で政府委員会が設立された。以下、同委員会が直面した困難とジレンマについて、イエジ・ドリガルスキ委員長が語る。

本委員会は旧共産党による新聞の独占を打破する目的で設立された。しかしながら、この目的のために制定された法律はこの事実に言及していなかった。ポーランドの民主的変革以降も旧共産党員が新聞支配を続けていたという事実は、彼らがまだ権力を維持している証拠だった。

新法が共産党による新聞独占を廃止しながらも、旧編集スタッフ　―その大部分は旧時代に党から登録された人間だ　―が新しい新聞の所有者になることを認めていたのは重大なパラドックスだった。この結果、古い政治システムが温存され、新しい政治勢力はポスト共産主義の新聞を利用するあらゆる機会を奪われたままだった。

このことが、「連帯」や新しい政党、そしてかつての反対派運動を支持した多くのジャーナリストたちからの抗議を呼んだ。彼らは、ノメンクラトゥラによる新聞の所有に抗議し、編集スタッフの入れ替えを要求し、将来のポーランド新聞界に対する発言権を求めた。

一方、ノメンクラトゥラの方も法律を自らに有利に解釈して、抗議の声をあげた。彼らは一夜にして新聞の自由の支持者になった。

この変身は、現実にはとうてい受入れ難いものだった。彼らはすべて、健忘症にかかったにちがいないとも言えた。突然、過去のことをすべて忘れてしまったのである。過去の清算については何も語られなかった。今日からはわれわれも独立したジャーナリストである、自分の足で立って行動するのだ、というわけである。

本委員会は、新しい政治勢力がＲＳＷの刊行物を自由に利用できるようにならないかぎり、旧党による新聞独占は真に打破されたことにはならないと考えた。かつて新聞の自由を求めて闘い、そのために迫害され、場合によっては投獄された人々が、今、新聞を発行する権利を要求できるというのは当然のことであった。正義が実現されなければならない。

ノメンクラトゥラや新しい政治勢力以外にも、新しく形成されたジャーナリスト協同組合が一部の新聞の発行権を手に入れようとした。しかし問題は、発行権入手の資格を判定するための基準をいかにして定めるかである。法律によれば、所有しようとする新聞の負債のすべてを引き継ぐことが必要である。しかしこの条件は、ジャーナリスト協同組合の大半にとっては実現不可能である。とりわけ、３億ズウォチもの負債を抱えるワルシャワの新聞諸紙の場合がそうである。この赤字は誰が負担し、経常支出や従業員の給料は誰が支払うのか？　ジャーナリスト協同組合と本委員会が

直面したのはこの問題であった。

協同組合による新聞発行権取得に関するもうひとつの困難は、本委員会の最終決定が国民の承認を得なければならなかったことである。ジャーナリスト協同組合が提出した115件の取得申請の多くは、さまざまな政治的、社会的組織によって拒否されてしまった。あらゆる社会的セクターが自らの新聞を欲し、あらゆる政治勢力が自らが優先されるべきことを求めた。

発行権の取得について国会の承認が得られなかった場合、あるいは特定の新聞についていくつかの政治的、社会的団体が競合した場合、本委員会はその取得権を競売にかけることにした。

ＲＳＷの再編成のための原案作りの段階で、本委員会はある基本的な問題にも答えようとした。すなわち、民主主義建設の困難な時期にあって、新聞はいかなる役割を果すべきなのか、である。

私の考えによれば、新聞は新しい政治的思想やプログラムの発生源とならなければならず、この役割を果すことによってポーランドにおける新しい政治的秩序の形成過程を加速しなければならない。同時に、民営化や、強力な発行所の確立、外国資本に対する開放などを通じて、真の新聞市場が形成されなければならない。

新しい新聞の形成は法に従って進められなければならない。しかもこのプロセスは「生きた有機体」の中で進行しなければならない。すなわち、新聞は再編成過程が進行している間も、発行され販売されなければならないのである。新聞発行体制の財政状態の健全化が絶対的な条件となるのもまさにこのためである。

ジャーナリストたちは早急な決定を要求した。作業の遅れは自分たちに不利に作用するというのが彼らの言い分だった。本委員会はしばしば作業が遅いと批判されたが、その活動が法律によって制限されている以上、これはやむをえないことであった。

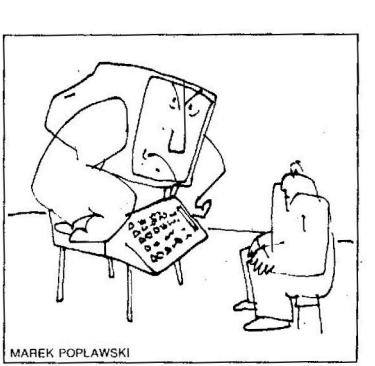
作業の過程で、本委員会は正反対に対立する要求を和解させなければならなかった。たとえば、新たな新聞の発行権を得ようとする新しい政治勢力の要求と、その新聞のこれまでの編集スタッフの利益の対立である。発行新聞タイトルをすべて維持したままで発行主体の財政的健全さを確保するという問題とも格闘しなければならなかった。ポーランド全土の統一的な新聞販売網を維持しつつも、同時に販売網を自らの傘下に置きたいとする地方ジャーナリスト協同組合の要求にも答える必要があった。こうした問題に本委員会がいかなる解答を出しても、必ずそれに不満を抱く人々がいて、われわれに抗議してきた。

本委員会が設立されて以降、あらゆるところから不当に苦情が持ち込まれた。首相府、上下両院議長、各省庁……こうした苦情のいくつかは議会での審議中に議員によっても検討された。しかし今日にいたるまで、こうした苦情が受け入れられたかを確認するために本委員会に連絡してきた人は皆無である。

われわれは、ＲＳＷ再編成に関するわれわれの原案について意見および忠告を聞くために、ポーランドの２つのジャーナリスト同盟と議会の文化委員会に連絡をとったが、今にいたるまで何の返答もない。この原案を法的、経済的決定に具体化するまでにはまだ時間がある。

本委員会は、われわれの作業が来るべき大統領選挙と国会選挙で政治的に利用されることがないよう望んでいる。また、個々の集団の利益が国全体の利益に優先されることがないよう願っている。

〔訳：水谷　驍〕



【2頁から続く】

9月22日　民主主義援助同盟（市民連動＝民主行動ROADと民主的右派フォーラムの同盟）代表がマゾヴィエツキ首相と、同首相の大統領選立候補問題を話し合う。●統一ドイツ入国の際ポーランド人にビザを要求するとの西独の決定に、ポーランド外務省は遺憾の意を表明。

9月24日　国連総会でスクビシェフスキ外相は湾岸地域へポーランドが病院船1隻と野戦病院を派遣すると発表、あわせて経済調裁協力によるポーランドの損害に援助を要請。●米国の実業家バルバラ・ヒアセツカ＝ジョンソン、もはやグダンスク造船所の株式取得の意思はないと明言。

9月25日　マゾヴィエツキ首相、4日間の日程でスペイン訪問。●外務次官、イラクとクウェートからポーランド人1900人がすでに帰国したがまだイラクに1200人以上が残っていると語る。

9月26日　マゾヴィエツキ首相、ゴンサレス・スペイン首相と会談。ゴンサレス首相はポーランドのEC加盟を支持する発言。

9月27日　下院、ヤルゼルスキ大統領の任期短縮と年内の国民投票による大統領選実施を定めた憲法改正案を賛成325、反対4、棄権10で可決。●政府報告によれば湾岸危機によるポーランドの直接的・間接的損害総額は110億ドルに。●ポーランド、チェコスロヴァキア、ハンガリー3国の国防次官がポーランド南部ザコパネ近郊のコシチェルスコで会合、ホスト共産主義体制下での軍改革について話し合う。●スペイン訪問を終えたマゾヴィエツキ首相、ニューヨークへ飛ぶ。

9月28日　昨日の下院に続き上院で憲法改正が可決。●旧統一労働者党の後身のひとつ、社会民主同盟（党首T・フイシュバフ）が、大統領選でのワレサ支持を表明。●マエフスキ副首相、湾岸地域への派兵計画はないと声明。

9月29日　マゾヴィエツキ首相はニューヨークでブッシュ米大統領と45分会談。米側はベーカー国務長官とスコウクロフト安全保障補佐官、ポーランド側はスクビシェフスキ外相とジェヴァノフスキ駐米大使が同席。●上院、中絶禁止法の修正草案を可決（賛成50、反対17、棄権5）、下院へ送付。

9月30日　ROAD創設評議会、満場一致で大統領候補にマゾヴィエツキ首相を推す決定。当の首相はまだ出馬表明をしていない。●地方の各市民委員会のメンバー約200人が、新組織「キリスト教市民運動」を創設。

中絶禁止法（上院で可決し下院に送付）に反対する女性たち

キリスト教と愛国精神に基づくポーランド第3の政治勢力を目指すもので、大統領候補としてはワレサを支持。

10月1日　ヤルゼルスキ大統領、憲法改正に署名。●世論調査センターOBOPの調査によれば、学校での宗教教育に関し、22%が義務化に賛成、37%は義務化すべきではないと考え、39%は学校以外の場での宗教教育を支持。●ワレサ、トルンのミコワイ・コペルニク大学から名誉博士号を送られる。

10月2日　コザキエヴィチ下院議長、大統領選を11月25日に実施と発表。●国防省、兵役期間を1年半に短縮するとの国防相決定を受け、入隊後18カ月以上の兵士を除隊させる。●欧州会議、ポーランドを自由選挙実施後欧州会議に加盟させる動議を可決。

10月3日　ドイツ統一。●この日からポーランド人は統一ドイツ入国に際しビザが必要となる。●「連帯」全国執行委、ワレサを「連帯」の大統領候補として支持することを決定。

10月4日　マゾヴィエツキ首相、大統領選出馬を正式表明。●コザキエヴィチ下院議長、国家選挙管理委員会を任命。

10月5日　国際農業団体「ユーロ・コンツェルン」設立。各国間の協業や技術・投資協力が目的で、ポーランド、チェコスロヴァキア、ブルガリア、フランス、イスラエル、ドイツ、イタリア、エストニア、リトアニア、ラトヴィアの政府、銀行、財界代表で構成。本

部をポーランドに置く。●ガソリンが約16%値上げ。

10月7日　ROADと民主的右派フォーラムが会合、マゾヴィエツキ選対委員会を設置。H・ヴォジニァコフスキを委員長に、A・ハル、Z・プヤク、W・フラシニュク、B・ゲレメク、M・クルル、J・M・ロキタ、A・ヴィエロヴィエイスキらがメンバー。これに伴い、ヴォジニァコフスキとハルはそれぞれ内閣官房長官と野党対策無任所相を辞任する見込み。●ワレサ支持の中央同盟、ワレサが当選すれば「ポーランドの民主的変革が加速化」され、「正義が復活」し、「やる気のある人々に未来への扉が開く」との選挙アピールを発表。●キリスト教民主労働同盟は大統領選でのワレサ支持を取りやめ、W・シリニノヴィツキ議長自らが出馬すると発表。

10月8日　M・ミレフスキ元内相（1980～81）をはじめ7人の旧内務省高官が汚職容疑で逮捕される。また、ホヒエウシコ神父殺害事件に関連してチャストン元内務次官とフワテク元第四部部長が逮捕される。●ワレサ、選挙スタッフの中にフロクラム委員会を任命。J・メルケル、カチンスキ兄弟、Z・ナイデル、J・オルシェフスキら。●独立ポーランド連盟議長L・モチュルスキ、大統領選出馬を発表。●中央統計局の調査によれば、今年9月の公営セクターの売り上げは前月比で7.2%上昇したが、1月から9月までの総計は前年同期比26.8%のダウン。またPAP通信によれば9月末の失業者数は92万6000人。

10月9日　ソレサ、ワルシャワ製鉄所で選挙運動をスタートさせる。●民主党（SD）、大統領選では特定候補の支持はしないと発表。●世論調査センターCBOSの調査によれば、大統領選ではワレサ支持が18%、マゾヴィエツキ支持が16%。●クウェートのポーランド大使館、イラクにより水道・電気・電話を止められて維持不能となり閉鎖。●日本の経団連の訪東欧ミッション（斉藤英四郎団長）がマゾヴィエツキ首相ら政府首脳6人と個別に会談。経団連は総額310億円の4つの合弁プロジェクトを提案。

10月10日　ポーランド農民党、バルトシチェ議長を大統領候補に決定。●スクビシェフスキ外相が訪ソ。

10月11日　スクビシェフスキ外相、モスクワでシェワルナゼ・ソ連外相と政治・経済問題を話し合う。●元統一労働者党第一書記E・ギエレク、回想録第2巻出版記念のカクテル・パーティーを開く。

10月12日　スクビシェフスキ外相、ゴルバチョフ・ソ連大統領と会談。●下院、ハルの大臣辞任を承認。後任はイエジ・チュムニエフスキ。

10月14日　マゾヴィエツキの選挙キャンペーンがクラクフでスタート。●地方市民委員会総会、大統領選でのワレサ支持を決定。

10月15日　欧州復興開発銀行のジャック・アタリ総裁がポーランド訪問。●スクビシェフスキ外相、ロシア共和国とポーランドの相互協力協定に調印。●ゴルバチョフ大統領にノーベル平和賞。

10月16日　マゾヴィエツキ首相、14万人の署名を集めて立候補届け出（届け出には10万の署名が必要）。●スクビシェフスキ外相、ポーランド－ウクライナ相互協定に調印。

10月17日　ワレサ、ノヴォフタでの選挙集会でマゾヴィエツキ陣営を批判。　〔訳編：高橋初子〕

編　集　後　記

☆ワレサ派がアメリカ型の徹底したイメージ選挙戦を展開、対するマゾヴィエツキ派はもっぱら理性に訴えるというやり方で、やはり両者の主張はすれ違いのまま、政策の違いははっきりしません。

☆年末で定期購読の期限切れや会員資格の更新期を迎える方が大勢います。ぜひ引き続き、ご協力、ご援助のほどをお願いします。東欧改革の先頭をゆくポーランドの改革の行方を今しばらくきちんと追跡する必要があると考えます。

☆次号は1・2月合併号として12月末に刊行の予定です。これをお届けして正月休み。90・11・21　み

ポーランド月報 九九〇年、一月分(通巻一〇五号)、九九〇年、一月五日発行(毎月一回五日発行)、九八四年一月一〇日第三種郵便物認可

☆☆ ポーランド月報既刊号目次 ☆☆

1990年6月号（通巻99号） 20頁 400円

ポーランド「連帯」はどこへ行く？……3
　第2回大会が示したもの
「連帯」の逆説　多元主義への道？……4
　ピォトル・シュヴァイツェル
「小黙示録」の世界……11
　タデウシュ・コンヴィツキと語る
ポーランド日誌　1990年3月15日～4月18日……2/18

1990年7月号（通巻100号） 36頁 500円

〈100号記念特別号〉

「連帯」とともに歩んで100号……3
　工藤幸雄
「連帯」第2回大会綱領決議……4
　1990年4月25日、グダンスク
スウプスクの鉄道ストライキ……18
　労働者の不満に「連帯」政権はどう答えるか
過渡期のジレンマ　ポーランドの場合……24
　ヤドヴィガ・スタニシキス
ワレサ、ミフニクを解任？……32
　ポーランド民主主義の行方
ポーランド日誌　1990年4月19日～5月16日……34

1990年8　9月号（通巻101/102号） 24頁 400円

新生ポーランドのために自制を……3
　マゾヴィエツキ首相の国会演説（要旨）
　1990年7月5日
「大統領になりたくない……しかし、ならざるをえまい」……5
　レフ・ワレサのインタビュー
「連帯」市民委員会に何がおこったか……14
　「改革の加速化」をめぐって
「カティンの森」日本公開に向けて……22
　兼岡敏二（ポーランド文化センター）
ポーランド日誌　1990年5月17日～6月20日……2/23

1990年10月号（通巻103号） 24頁 400円

「連帯」10年間の経験……3
　活動家、知識人アンケート
騒動なき前進をめざす……11
　「市民運動　民主行動（ROAD）」の理念
民主主義への最初の数歩　争点は何か……15
　ヤヌシュ・ヤンコヴィアク
ワレサ？　マゾヴィエツキ？……19
　世論調査から
学校に宗教の時間が復活――是非をめぐり議論……20
ポーランド日誌　1990年6月21日～8月24日……2/21

1990年11月号（通巻104号） 20頁 400円

終わりのない革命……3
　グダンスク協定10周年記念行事
歴史の新しい瞬間に挑戦する……4
　「連帯」記念集会でのT・マゾヴィエツキの演説
違いははっきりさせよう……6
　「連帯」記念集会でのL・ワレサの演説
民主主義ポーランドをいかに築くか……10
　ROADと中央同盟に聞く
ROAD創設者声明/中央同盟の経済信条……13/17
ポーランド日誌　1990年8月25日～9月12日……2/19

発行所・ポーランド資料センター
Center for Polish Research
〒177　東京都練馬区下石神井6－35－7
電話　03－904－0427　郵便振替　東京　2－81069
6－35－7　Shimo－Shakujii, Nerima－ku, Tokyo 177　JAPAN
定価400円・年間定期購読料4600円（送料共）